Ⅱ　国語科の問題と調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

１「設問のねらいと評価」について

・「大問・領域」には「読むこと」「書くこと」「言語事項」の２領域・１事項を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には、「国語への関心･意欲･態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の５観点に該当するものを〇印で示した。

２「調査結果の分析と指導のポイント」について

・調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「領域別（領域や内容別）」「継続して見られる課題」を示し、指導のポイントについては、今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点を示した。また、文末の「〇ページ参照」は、次の３「領域別調査結果の考察と指導のポイント」の内容との関連箇所を示している。

３「領域別調査結果の考察と指導のポイント」について

・大問ごとに設問・正答・結果・誤答例等について左ページに、その考察（概要・指導のポイント）について右ページに記した。

・分析等では、小数第２位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1　設問のねらいと評価

1　国語への関心・意欲・態度
2　話す・聞く能力
3　書く能力
4　読む能力
5　言語についての知識・理解・技能

大問・領域	小問	設問のねらい		観点別評価				
				1	2	3	4	5
1　読むこと	問一	場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。					○	
	問二	場面の情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。					○	
	問三	段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。					○	
	問四	叙述をもとに想像しながら読み、読み取った内容について自分の考えをまとめることができる。	段落選択	○			○	
			叙述					
			理由					
2　言語事項	問一	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことができる。						○
								○
		当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。						○
								○
								○
	問二	文の構造を理解し、修飾語と被修飾語の関係を正しく理解することができる。						○
								○
	問三	用言を言い切りの形に直すことができる。						○
		辞書を利用して調べることができる。						○
	問四	接続語を正しく使うことができる。						○
								○
3　書くこと		相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	①の段落	○		○		
			おすすめの段落	○		○		
			文末の表現			○		○
			原稿用紙の使い方			○		○

２　調査結果の分析と指導のポイント

(1)　調査結果の分析

全体	◇漢字の読み書き等の言語事項については、おおむねできている。 ◆目的や意図に応じて適切に表現すること(記述)に課題がある。 ◆問いの意味を十分に理解しないまま解答していて、正対していないことに課題がある。
領域別	＜読むこと＞ ◇記述の仕方の違いに目を向けて、読むことができている。 ◆場面の状況を叙述を基に想像しながら読むことや、正確に引用することに課題がある。 〔言語事項〕 ◇配当漢字の読み書き、基本的な語彙の使い方はおおむね身に付いている。 ◆文の構造を理解し、修飾語と被修飾語の関係を正しく把握することに課題がある。 ＜書くこと＞ ◇文末を意識して書くことはおおむねできている。 ◆条件に合わせて、必要事項を取り出して書くことに課題がある。 ◆原稿用紙の書き方のきまりに合わせて表記することに課題がある。
継続して見られる課題	＜読むこと＞ ◆叙述を基に登場人物の心情、場面の描写を読み取ること。 **(報告書ｐ．７「１　叙述に即した読みの指導」「２　文学的な文章の解釈の指導」参照)** ＜書くこと＞ ◆文章を読み、自分の考えを自分の言葉で表現したり、条件に合わせて書いたりすること。 **(報告書ｐ．11「１　相手や目的に応じて、適切に書く能力を高める指導」参照)** ＜書くこと、読むこと＞ ◆問いに正対して答えること。

(2)　指導のポイント

国語科の学習を充実させるためには、児童主体の言語活動を充実させることが不可欠である。そして、教師が指導計画を立てるときに付けたい力と言語活動を明確に位置付けること、教師と児童が共に学習計画を立て児童が見通しをもって学習できるようにすることが大切である。何のためにこの学習を行っているのかというゴール(言語活動)を見据え、どのようなことを身に付ければよいのか、いつまでに何をやっておくのかなどを児童が意識することで、主体的に学習に取り組むことができるからである。各領域でこの主体的な学習を積み重ねることが重要である。

＜問いに正対するために、正しく聞き取ったり読み取ったりすることを指導する＞

発問やワークシートで指示されている内容を正しく聞き取ったり読み取ったりすることは、話す・聞く能力、読む能力として、取り出して指導する必要がある。様々な答え方の中から、どのように答えればよいのかを発問や指示の内容と比較して検討させる等、具体的な場面をとらえて指導する。

＜読む力を付けるために、日常から本に触れ、読書の楽しさを味わう読書活動を位置付ける＞

国語科の授業の中では、発達段階に応じてテーマ別、作者別、ジャンル別等、カテゴリー別に多くの本を用意しておくなど、読書環境を整え、様々な本に触れる機会を増やしていきたい。また、授業における図書資料の活用だけでなく、読書の時間を設けて時間を確保したり、読書週間を設けて一定期間に読書活動を取り入れたりする機会を設けるようにする。

＜書く力を付けるために、書く目的を明確にし、その文章の特徴に合わせた取材・構成・記述の指導をする＞

意見文を書く場合、目的は、ある事柄に対する自分の意見を相手に理解してもらうことである。そのためには、その事柄の課題を明確にし、その解決に向けての自分の意見とその根拠としての事実を示す。なぜそれを課題だと感じたのか（課題設定)、どんな事実を集めるのか（取材)、どんな順序で書くのか（構成)、具体的に一文一文をどう書くのか（記述）という一連の思考過程がある。指導に当たっては、この過程に沿った学習の手だてを考えるとよい。また、学習活動に、交流を位置付けてお互いのよさを見付け合い、自分の書く力に結び付ける指導も大切である。

3　領域別調査結果の考察と指導のポイント

（1）読むこと

領域別正答率（%）	H19	H20	H21	H22
	71	68	84.5	68.2

大問・領域	小問	問　　題	正　　答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
1 読むこと	問一	「私」が、「いつも『ギャア』が聞えるたびに姉のところへ走って」行ったのは、何をするためですか。十文字以内で答えましょう。	アオムシを手に入れるため	・わたしの家は八百屋だった(ため) ・アオムシをつかまえる(ため)		60.1	2.0	65
	問二	「アオムシにしてみりゃ丸太棒」の「丸太棒」とは、何のことをたとえていますか。次のア～エの中から一つ選んで、記号で書きましょう。 ア　キャベツの葉 イ　「私」の手の指 ウ　「私」の足 エ　木の棒	イ（「私」の手の指）	エ（木の棒）		62.9	2.1	65
	問三	「アオムシのサナギ」について、作者が疑問に思っていることが分かるだん落はどこですか。①～⑧のだん落の中から一つ選んで、番号を書きましょう。	⑦	⑧		82.0	2.7	75
	問四	たかし君は、この話を読み終えてから、次のように発表しました。 「私」は、アオムシのことをとてもすきなのだと思います。 なぜなら、②だん落に「足元のキャベツをすかさず拾ってはアオムシを手に入れていた。」と書いてあるからです。すきだから、すかさず拾って手に入れたのだと思います。 あなたも、たかし君の発表の仕方に合わせて、アオムシのことをすきだと分かる部分とそのわけを考えて、解答用紙の［　　］の中に書きましょう。（③～⑧だん落の中からさがします。）	＜例＞ 「私」は、アオムシのことをとてもすきなのだと思います。 なぜなら、③だん落に「幼い私はそれを見ては満足していたわけである。」と書いてあるからです。すきでなければ、アオムシの様子をわざわざ見ないと思います。	【段落】 ② 【叙述の部分】 ・分かる部分を抜き出していない ・文型が不十分 【理由の部分】 ・抜き出した部分と理由が合っていない。 ・好きだからという観点がない。 例） 「アオムシを数匹持っているから」 「みんなで仲良くすることは、とても大切だと思うから」	段落選択・叙述	72.2	段落 1.9 叙述 2.1	70
					理　由	63.8	4.9	55

（単位：%）

読むこと

結果の概要

【問一】について

場面についての描写を読み取り、問われている内容の言葉を書き抜くことができるかを見る問題であった。正答率は60.1％であった。「私の家は八百屋だった（ため）」と解答する児童が見られた。設問の「何をするため」の表記から、前後の文の関係をとらえずに文中の「ため」という言葉を手がかりに答えていると考えられる。また、「アオムシをつかまえる(ため)」と答えるなど、正答との文意はほぼ同じだが、文中の言葉を使って答えていない解答が見られた。目的に応じて正確に引用する力が不十分であると考えられる。

【問二】について

叙述を基に場面の情景を想像し、比喩を使って何を表しているのかを読み取ることができるかを見る問題であった。正答率は62.9％であった。エと解答する児童が多く見られた。丸太棒の「棒」と木の棒の「棒」だけを当てはめて答えていると考えられる。このことから、叙述から場面の情景を想像することが不十分であると考えられる。

【問三】について

段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができるかを見る問題であった。正答率は82.0％と高かった。大半の児童が、文末の「だろうか」を手がかりにして問いかけの文を基に理解することができている。

【問四】について

叙述について自分の考えをまとめることができるかを見る問題であった。選んだ段落から正確に本文を書き抜くことについては、正答率が72.2％と高かった。その反面、書き抜いた本文をもとに好きな理由を考えて書くことについては、正答率が63.8％と若干低くなった。

前者の問題については、問一と同様に、設問の意図に沿って文章を引用することが不十分な解答が見られた。後者の問題については、抜き出した部分に理由が沿っていなかったり、「アオムシを数匹持っているから」「みんなで仲良くすることはとても大切だと思うから」など、叙述に即した理由になっていなかったりした。また、②の場面から抜き出してしまったために不正解となっているが、内容面だけをみると、文章の引用や抜き出した理由について適切に記述できている児童が見られた。題意を十分に理解しないままという点については、全設問に共通している。

指導のポイント

１　叙述に即した読みの指導

読むことの学習活動の中で、自分の考えや意見を伝え合う時には、「○ページの△行目に～と書いてあるので、私は～だと思います。」「私は～だと思います。その訳は、○ページの△行目に～と書いてあるからです。」等の話型に示されるように、叙述に理由や根拠を求めるよう指導する必要がある。文章中から必要な情報を収集する場合には、キーワードを見付けたり、文章を引用したり、要約したりする。これらの方法を具体的に学ばせることが大事である。特に、引用の仕方、要約の仕方は、読む目的に応じた指導をする必要がある。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」との関連を図りながら、発表し合う場、交流する場を設定することが大切である。

２　文学的な文章の解釈の指導

文学的な文章の解釈は、一人ひとりの感じ方や考え方に違いが生じる。お互いの違いを受け入れる学習は、自分の読みを深めることにつながるため、大事にしたい。しかし、自分の経験を先行させて文章をよく読まずに解釈していくことは、浅い読みや誤読につながる。「１　叙述に即した読みの指導」で示した話型にあるように、叙述を根拠として登場人物の心情や場面の状況を想像することを指導することが大切である。

（2）言語事項

領域別正答率（%）	H19	H20	H21	H22
	74	75	80.1	72.6

大問・領域	小問		問題	正答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
二 言語事項	問一	(1)	富士山を望む。（漢字の読み）	のぞ（む）			91.4	2.3	85
		(2)	やさしく説く。（漢字の読み）	と（く）	せつく・くどく		58.3	13.1	55
		(3)	駅前のしょうてんに行く。（漢字の書き）	商店	店→点		77.3	4.5	60
		(4)	スープがあたたかい。（漢字の書き）	温（かい）	熱		82.3	4.2	75
		(5)	にわ に花を植える。（漢字の書き）	庭			86.4	4.5	85
	問二	(1)	□の言葉が修飾する言葉 姉が（ア） 台所で（イ） おいしそうな ケーキを（ウ） やいている（エ）。（修飾語）	ウ（ケーキ）	エ（やいている）		80.8	2.8	85
		(2)	□の言葉が修飾する言葉 二頭の（ア） 馬が（イ）、風のように 草原を（ウ） 走る（エ）。（修飾語）	エ（走る）	ウ（草原） イ（馬）		58.8	2.8	65
	問三	(1)	次の文の ――― 部「空いたら」の意味を国語辞典で調べます。 手が空いたら、この荷物を運んでください。 次の【例】のように、「空いたら」を国語辞典にのっている言葉の形に直して書きましょう。 【例】大きく→大きい	空く	空いた		61.3	8.7	70
		(2)	当てはまる意味をア～ウの中から一つ選んで、記号で答えましょう。 ア 中のものがからになる。 イ ひまができる。 ウ すきまができる。	イ（ひまができる。）	ア（中のものがからになる。）		65.3	5.2	70
	問四	(1)	つなぎ言葉を入れて、一つの文を二つの文に分けましょう。 今日は、朝から雨がふっているため、運動会は中止になった。	今日は、朝から雨がふっている。だから、運動会は中止になった。	・文をかえてしまう。 ・一文目を体言止めにしてしまう。		68.5	4.4	80
		(2)	つなぎ言葉を入れて、一つの文を二つの文に分けましょう。 わたしは、野菜が苦手だけど、残さず食べた。	わたしは、野菜が苦手だ。しかし、残さず食べた。			67.8	5.2	70

（単位：%）

言語事項

結果の概要

【問一】について

（1）の漢字の読みは、正答率が90%を超えた。しかし、（2）「説く」の漢字の読みは、58.3%と低い正答率であった。「せつく」「くどく」と表記する誤りと無解答が多かった。漢字の書き取りにおいては、（4）「温かい」（5）「庭」については、80%を超える正答率であった。（3）の「商店」については、77.3%の正答率であった。（4）の誤答例としては、「熱かい」「温たかい」と表記してしまい、他の問いについては無解答が多かった。

【問二】について

第３学年の学習内容であるが、（1）は、80.8%の正答率ではあるものの、（2）においては、58.8%と低い正答率である。修飾語と被修飾語の関係を正しく理解していないことが分かる。（2）の「二頭の馬が風のように草原を走る。」の問いでは、修飾語の直後の「草原を」を選んでいる誤答と「馬が」を選んでいる誤答が多かった。主語・述語の理解も不十分であることが分かる。

【問三】について

（1）は、国語辞典を活用する際、用言を言い切りの形に直すことができたかを見る問題であったが、正答率は61.3%であった。「空いた」と表記してしまう誤答が多かった。（2）は、65.3%とこちらも低い正答率であった。辞書を利用して言葉を引くことはできても、文脈に沿った適切な意味を選択できるようにならなければ、「辞書を利用して調べることができる」とは言えない。

【問四】について

一文を二文にし、接続語を正しく使うことができているかを見る問題であった。（1）は、68. 5%（2）は、67.8%の正答率であった。文を変えてしまったり、一文目を体言止めにしてしまったりする誤答が見られた。

指導のポイント

１　漢字の指導

新出漢字では、書き順や読み方はもちろんであるが、漢字に対して興味をもたせる工夫が必要である。かんむり・へん・つくりなどの「カルタ」や「言葉集め」をゲーム感覚で学ぶ方法も考えられる。また、日常的に漢字音読や文作り(熟語を使うことも含めて)などを繰り返し、定着を図る必要がある。単なる反復学習にならないよう留意したい。

２　修飾語の指導

修飾語については、第３学年で学習する内容である。その際、教科書の中や学級文庫の本から抜き出して分類したり、身の回りから修飾語を見付けて短文作りをしたりするなど、理解するために興味を高める活動を工夫したい。また、「読むこと」「書くこと」の単元の中で、意図的に文を取り出して、主語・述語・修飾語等の言葉を確認することも必要である。

３　国語辞典の活用

辞書を活用する習慣を付けるよう、国語をはじめ、他教科等でも常に辞書を身近に置き、積極的に調べる機会を設けることが大切である。その際、複数の意味が載っていた場合、文脈から当てはまる言葉をさがす学習などを意図的・計画的に取り入れ、正しい意味を確認することが必要である。

４　文の構成

学習活動の中に位置付ける推敲の場面では、誤字脱字を確かめることも大事であるが、書かれた一文一文を丁寧に読み、一文の中の構成を学ぶことも必要である。主述を呼応させること、修飾語を適切に使うこと、接続詞等を使って一文を二文に分けるなど適度な長さにすること、二文を一文にすること等、具体的な文の操作を通して推敲の知識を習得させるのである。

（3）書くこと

領域別正答率（%）	H19	H20	H21	H22
	66	78	86.7	42.9

大問・領域	問　　題	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3 書くこと	【内容面】①の段落		33.8	11.3	55
	【内容面】おすすめの段落		58.0	19.5	70
	【表記面】文末の敬体		62.0		70
	【表記面】原稿用紙の使い方		17.8		50

まりさんは、学級新聞の「チャレンジコーナー」に「ホットケーキをつくってみよう！」という記事をのせることにしました。

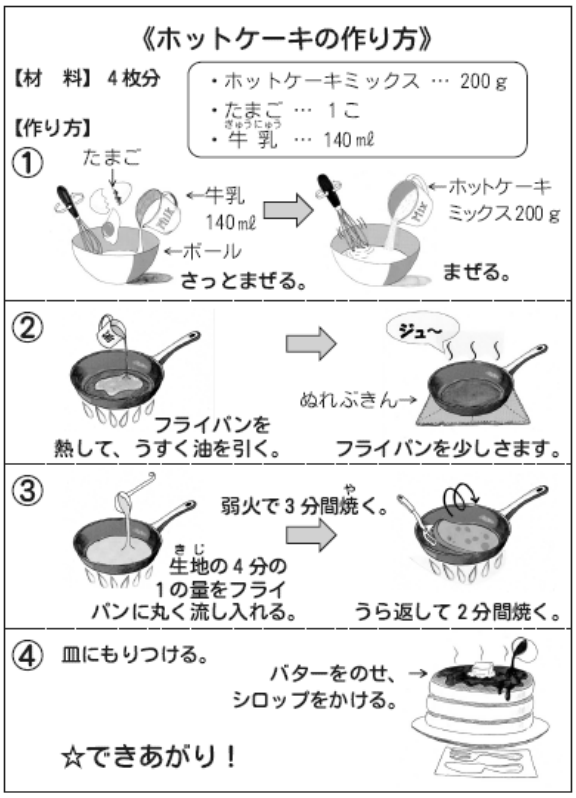
解答用紙の[ア]と[イ]の［　　］にふさわしい文を【注意】にしたがって書きましょう。

【注意】

1　解答用紙の全体の文をよく見て、書き方をそろえて書くこと。

2　ア［　　］の中には、左の《ホットケーキの作り方》の①の部分について、作る順序が分かるように文を書くこと。

3　イ［　　］の中には、ホットケーキをみんなに作ってもらえるように「おすすめ」する文を書くこと。



【採点基準】

（1）　内容面

ア：A　1文目の文頭に「はじめに」「まず」など順序を表すつなぎ言葉が使われている。

B　「たまご1こ」「牛乳140ml」「さっとまぜる」「ホットケーミックス200g」「まぜる」の5つの言葉をすべてを、使って文章を作っている。

イ：おすすめの文を書いている。

（2）　表記面

○　文末表記について、他の文章に合わせて敬体（です、ます）で書いている。

○　原稿用紙の使い方について

・　段落の始めは、1文字下げて書いている。

・　数字を漢数字にする。

・　アルファベットで書かれている単位を仮名にする。

（単位：%）

書くこと

結果の概要

学級新聞に「ホットケーキを作ってみよう！」という記事を載せるために、「ホットケーキの作り方」の資料を活用し、作る順序が分かるように文章を書くことができるかを見る問題であった。

１　条件１（ア・イの内容）について

アの部分は、一文目の文頭に「はじめに」「まず」等の順序を表す言葉が入っていること、「たまご１こ」「牛乳 140mℓ」「さっとまぜる」「ホットケーキミックス 200ｇ」「まぜる」の５つの言葉すべてを使って文章を作っていることの２つの要素が満たされていれば正答と見なす採点基準であった。正答率が 33．8％と低いが、誤答例を見ると、文頭の順序を表す言葉がぬけているもの、「たまご」の個数がぬけているもの、分量がぬけているもの等、５つの言葉がそろっていないために正答に至らないケースが多かった。

イの部分は、ホットケーキをみんなに作ってもらえるような「おすすめ」する文にすることが条件で、正答率が 58.0％であった。無解答率も 19.5％と高い。「～しましょう。」「みなさんも～してみませんか。」「ぜひ～してください。」等の表現になっておらず、「～です。」「～と思います。」等の誤答例が多く見られた。他人にすすめる表現は、本の紹介などで使ったことがあると思われるが、与えられた条件に応じて文末を書き分けるということを十分理解していないことが分かる。

２　条件２（ア・イの表記）について

ア・イともに、文末を敬体にそろえることができれば１点配点、正答率は 62.0％でおおむねできていた。誤答例では、特にイの「おすすめ」する表現で、「これで、できあがり。」「作ってみてね、おいしいよ。」等、読み手に投げかけはしているが、敬体になっていないものが多かった。

原稿用紙の使い方について、段落のはじめは一文字下げ、縦書きでは数字を漢数字にすること、アルファベットで書かれている単位を片仮名にすることが満たされていれば１点配点であったが、正答率は 17．8％と低い。特に多い誤答例は、数字を漢数字にしなかったり、単位が片仮名表記になっていなかったりするものであった。文末を敬体か常体にそろえることや、縦書きの表記のしかたの理解が不十分であることが分かる。

指導のポイント

１　相手や目的に応じて、適切に書く能力を高める指導

文章を書く場合は、相手を明確にすることが必要である。読み手が目上なのか同年代か年少か、親しいかそうでないか、私的な内容なのか公的なことなのか等を考えるのである。まずは、相手に合わせて言葉を易しいものに置き換えるべきか、文末表現を敬体にすべきか等を考える必要がある。また、事実を説明しているのか、自分の感想や意見を書いているのか、断定している文なのか、推論している文なのか等、目的によって文末表現が変わる。これらのことを児童が意識できるようにするのはもちろん、教師も意識して指導に当たるように心掛けることが大切である。様々な種類の文章に触れさせ、それを視写する活動も効果的である。

順序を示す言葉の「はじめに」に続く言葉として、「次に」「その次に」はよく認知され使うことができているが、「そこに」や、「そして」「まぜ終えたら」などの言葉も文脈に応じて使えるようにしたい。そのためには、表現の仕方に目を向けながら「読む」活動が効果的である。「読むこと」「書くこと」を関連させて言葉の使い方をしっかり理解させたい。

２　原稿用紙の使い方の指導

低学年のうちから繰り返し指導することが必要である。学習指導要領の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕には、低学年のウ(ア)や中学年のイ(エ)に、片仮名表記や改行についての項目がある。文章を正しく視写する活動を繰り返し行い、習熟を図りたい。その際、ワークシート等の書く用紙はます目のものを使用すると、低学年のうちから字数や正しい表記を意識することができる。特に縦書きのきまりは、児童が日ごろから正しい表記を目にする環境づくりも大切である。板書で縦書きの月日を書くときは、算用数字でなく漢数字を使うようにしたり、校内の掲示物などにも正しい表記をしたりするよう十分留意したい。